

# 本庄南ロータリークラブ

会  
報

例会日 毎火曜日 19:00~20:00  
例会場 埼玉グランドホテル本庄  
事務所 埼玉グランドホテル本庄内 〒367-004本庄市駅南2-2-1  
Tel : 0495-23-0141 / Fax : 0495-23-0141  
E-mail : rotary@mail.honjo.ne.jp

会長 矢部 一臣 会報広報委員会 / 委員長 飯塚能成  
幹事 星野 栄一 / 委員 木村真純 堀川 明



第73回例会

5月26日(火)

発行 平成21年6月2日(火)

司会 / 奈良橋秋夫 SSA  
点鐘 / 19時00分 矢部一臣会長  
ソング / 我等の生業

会長挨拶

矢部一臣 会長



規定審議会  
(Council on Legislation)

皆様、こんにちは。

今日の例会は、早稲田大学大学院の留学生の皆様との交流会です。

互いに交流するなかで、国際理解を深め、世界平和を望んでいきたいと思えます。

さて、過日、『ネイティブスピーカーになるための英語革命』という本を読みました。この本は、英語、英会話の先生の書いた本ではありません。

40才を過ぎて、勉強を始めた弁護士が書いた本です。

学生時代にネイティブスピーカーになりたいという夢があったことを思い出し、勉強を始めたということです。

皆様の母国語は、様々ですが、英語を共通語としてコミュニケーションすることができれば、もっと深く相互理解ができます。

日本では、一般的に中学校、高校で各3年間、大学で2年、合計8年間、英語を勉強しますが、自然に英語を話せる人はほとんどいません。

日本の学校では、教科書で英語を読んで、書いて、英語に日本語の訳をくっつけながら、単語を覚え、文法を学び、知識として英語を学んでいます。

しかし、元来、言葉を自然に身につける過程では、言葉をイメージとして捉え、聞いて、話して、それから文字や文法へと進んでいきます。私たちは、感覚的で無意識的で瞬時にイメージ

を作り上げる「言葉をつかさどる場所」で英語を学ぶべきところ、理性的で意識的な「勉強する場所」「物考える場所」で英語を学んでいるということです。

「考える場所」で英語を使っているのは、自然な言葉は身につかない、ということです。「考える場所」から抜け出せなければ、ネイティブスピーカーには、なれないということです。

著者は、その実践として、英語と日本語を切り離し(英英辞典使用)、ヒヤリング、リーディング、スピーキングすること。

「考える場所」から抜け出し、「言葉をつかさどる場所」で英語のネットワークとイメージを結びつけることが必要なことに気付いたということです。ネイティブスピーカーを目指したいものです。

さて、今日のロータリー情報は、規定審議会(Council on Legislation)です。

規定審議会(Council on Legislation)は、国際ロータリー定款第10条とR.I.細則第8条に定めるように国際ロータリーの立法機関です。投票権を有する議員は、各地区のクラブの代表議員から成ります。各地区のクラブ代表議員が出席するもので、クラブ、地区大会、R.I.B.I.審議会または大会、規定審議会、R.I.理事会が提出した制定案と決議案を審議、決定するために3年に1度開かれます。立法を採択するに当たっての決定は、全クラブの再審議を経て、発効します。規定審議会が地区内クラブを代表するために選ばれたロータリアン(会長から別段の承認を受けない限り、元役員)で、審議会の投票権を有する議員は、規定審議会の代表議員(Council on Legislation Representative)といわれます。

(ロータリージャパンから)

Hello ..everybody...

Today's regular meeting is an exchange association with everybody of the international student of the Waseda University graduate school.

It wants to deepen international understanding on the inside mutually exchanged, and to wish for world peace.

Well, I read the book 'English revolution because of becoming the native speaker' some days ago.

This book is not a book that the teacher of English and English conversation wrote.

It is a book that 40 years old was passed, and the lawyer who had started studying wrote.

It was recalled that there was a dream that it wanted to become a native speaker in the school days, and started studying.

Each other can understand more deeply if the communication can do by assuming English to be a common language though the mother tongue of everybody is various.

In Japan, there are generally few people who can naturally speak English in the junior high school and the high school though English is studied for three years for each by eight years in total of two years at the university.

In the school in Japan, English is read, written by the textbook, the word is memorized while joining a Japanese translation to English, the grammar is studied, and English is studied as knowledge.

However, the word is originally spoken catching as an image, and hearing it and it advances to the character and the grammar in the process of naturally acquiring the word.

We are to study English rationally the sense and unconsciously in "Place where the word is ruled" that instantaneously makes up the image it is necessary to study English by intentional "Studied place" and "Place in which it thinks about the thing".

A natural word is not to acquire when English is used by "Thought place". If it is not possible to slip out "Thought place", it is not possible to become a native speaker.

Do the separation (British British dictionary use), and [hiyaringu], the reading, and the speaking as the practice the author as for English and Japanese.

It was noticed that it was necessary that it slipped out "Thought place", and an English network tie to the image by "Place where the word was ruled".

I want to aim at the native speaker.

## 次 第

点鐘  
会長挨拶  
幹事報告  
委員長挨拶

写真撮影

### 交流会開会

ジャンケンゲーム (乾杯の挨拶決定)

### 乾杯と一言(1名)・・・プレゼント1ヶ

自己紹介

歓談

ジャンケンゲーム (手締め決定)

### 手締めと一言(感想等)(3名)

・・・プレゼント3ヶ

閉会







**委員会報告**

**国際奉仕委員長**  
**常任委員長 戸谷 全克**



本日午後3時半より早稲田大学コミュニティセンター2階ギャラリーにおいて、本年度の国際奉仕委員会の課外活動である早大大学院院生との交流活動を行った。学生たちのほがらかな雰囲気にもまれて楽しいひとときを過ごすことが出来た。

**出席報告**

**清水正一 出席委員長**

会員数	出席	M U	欠席	出席率
22名	10名	5名	7名	68.18%

**例会予定**

- 6月2日 会員スピーチ(会員組織) G本庄  
 . . . 定例理事会
- 6月9日 クラブ協議会 G本庄
- 6月16日 パネルディスカッション(クラブ運営) G本庄
- 6月23日 オープン例会 L a l a
- 6月30日 サヨナラ例会 G本庄